No.14

讀賣新聞
昭和58年(1983年)10月11日（火曜日）

ダイヤル018

自然豊かな「カエル村」

出羽丘陵に〝観光の里〟

西仙北 山村の生活を都会人に

刈和野の佐々木さんが創設

自然と共に暮らす喜びを味わってみませんか——西仙北町大沢郷円行寺猿井沢の山あいに、新しいふるさとづくりをめざした観光の村が、十日オープンした。生活が自然にカエル（帰る）、自分を見つめて考えをカエル（変える）とのことから、その名も「カエル村」。山小屋でのキャンプや民泊をしながら、地域の年中行事に参加したり、田植えや稲刈り、炭焼きなどを体験してもらおうという試みだ。

カエル村を創設したのは、アフリカ・ソマリアの子供たちを救う「愛の一粒運動」などのボランティア活動のリーダーをしている同町刈和野、住宅設備会社経営佐々木正光さん(三三)。恵まれた自然と、豊かな人情を県内外の人たちに理解してもらうと同時に、地元の若者たちが自信と誇りを持って暮らせるふるさとをつくろう、というのがねらいだという。

村の建設地は民有林約四十㌶。佐々木さんのアイデアに同調し、「村長」役をかって出た地元の農業田村為治さん(五九)が提供してくれた。村内の施設は、田村さんの炭焼き小屋と、新しく作ったカヤぶきの山小屋、それにキャンプ場二か所。出羽丘陵のど真ん中だけに〝村有地〟の山頂からは、晴れた日にはすばらしいながめが楽しめる。

自然を売り物にオープンした「カエル村」

十日の開村式には、佐々木さん、田村さんと地元民約十人が出席、村の発展を祈願したあと村内の登山コースを一巡して汗を流し、ナベッコ料理で乾杯しながら、村の未来に夢をふくらませていた。

「生活はあなた自身の手で」というのがテーマとあって、村内には電気はもちろん、ガスも水道もないが、自然だけはたっぷり。動植物の観察、森林浴、山菜やキノコ採り、川遊びなどが存分にできるし、冬は民泊しながら、山岳スキーなどが楽しい。

村の〝目玉商品〟は、入村者と地元民とのふれあいで、「体験生活ごよみ」によると、たとえば、一月は民家での豆腐、納豆づくり、五月は農家での田植え、タケノコ採り、九、十月は稲刈り、キノコ採りといったぐあいに、地元民との交流がもりだくさん。

入村の申し込みは、同町刈和野、佐々木興業内「カエル村」事務局（電話〇一八七七—五—二六二六）。

村民定数は一日二十人。宿泊料は山小屋一泊千円、民泊一泊二千五百円。テント、自炊用具は無料で貸し出す。今月下旬にはさっそく、東京からの入村者がやって来る予定だという。

朝日

第2秋田 （16）
1983年(昭和58年)10月12日 水曜日

自然に帰る・生活を変える

「カエル村」へ飛び出そう

西仙北でオープン、自給自足を体験

「自然にカエル」を掲げてオープンしたカエル村＝仙北郡西仙北町大沢郷で

自然にカエル（帰る）。そして、自分の生活を考え、カエル（変える）——そんな理想を掲げた「カエル村」が仙北郡西仙北町に生まれ、十日、開村式が行われた。約四十㌶の山林内で、小屋の自炊生活をして自然に親しんだり、農家と一緒にみそ造り、田植えに体を動かしたりして、いまの生活を見直してみよう、という試みだ。

カエル村の所在地は、同町大沢郷。町内の会社社長佐々木正光さん(三三)が中心になってつくった。「この村は、単なるキャンプ場ではない。自然の中で人生を省みる、人生の休憩場としたい」というのが、佐々木さんの考え。

ほとんど人の手の入っていない山林内に、丸太小屋とかやぶきの山小屋が建てられている。電気、水道、ガスはなく、沢の水やまきを使っての自給自足生活をすることになる。村内には全長約一・四㌔の遊歩道があり、山頂からは鳥海山が間近に見え、太平山、出羽丘陵も望める。

それに、近くの農家などとの協力で、年間を通じて都会にはないいろいろの体験もできる。冬の炭焼き、納豆づくりに始まり、わら細工、各種の野菜の種まき、稲刈りなど、季節ごとに体験生活のプログラムが組まれている。

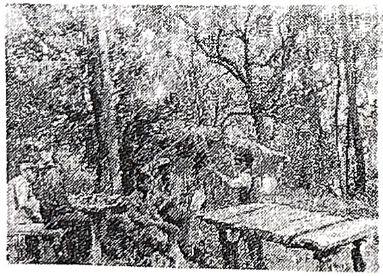
◇ ◇

カエル村の利用料は一日、一人六百円。山小屋の宿泊料は千円。二食付きの民宿もある。申し込みは、同町刈和野二五、佐々木興業内「カエル村事務局」（〇一八七七—五—二六二六）へ。

58.10.12 東北版
日本經濟新聞

みち

○…「本物の自然の中で、電気、ガス、水道なしの生活を体験してみませんか」——秋田県仙北郡西仙北町大沢郷に「カエル村」がこのほどオープンした。



○…カエル村の名前は「カエルが住む四季豊かな自然で、都会の雑踏の中の生活から自然にカエル（帰る）、また、いまの生活を見直し、自分の生活をカエル（変える）ことを期待してつけた」とカエル村を企画した佐々木興業社長の佐々木正光さん。カエル村の施設は炭焼き小屋とかやぶき屋根の小屋、それにちょっとした広場があるだけで、あとは約四十㌶の自然のままの山林＝写真。

○…電気も水道もガスもない中で、各人の創意と工夫で自然を満喫してほしいという。木登り、川遊び、手作りの山菜料理、森林浴など楽しみ方はいくらでも広がる。カエル村で生活しながら、地元の人と一緒に、豆腐、納豆づくり、野菜の種まき、みそや漬物づくり、炭焼きなども体験できる。入村料は一日六百円で、自炊用具やテントは無料で貸す。申し込みは01877・5・2626の佐々木興業内カエル村事務局まで。